

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	武雄市立山内西小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	①知的な学校【知的好奇心の育成】について ・教師間で情報交換をしながらICT機器を積極的に活用しわかりやすい授業を行ったことで、学習内容がよりわかると答えた児童が87%であった。また、「授業づくりのステップ1.2.3」を意識してステップ3を目指した授業づくりを行い、「話し合い活動」や「振り返り」はステップ3を達成した教員は72%であった。次年度は、基礎基本の学習内容の定着と思考力・判断力・表現力がさらに向上するように個別の指導・支援や家庭学習への取り組みませ方を工夫し、学力の底上げを全職員で図っていきたい。 ②居心地のいい学校【自己肯定感の育成】について ・挨拶、返事、言葉遣いに関して、87%の児童が肯定的に取り組むことができていた。人権集会や異学年交流、道德の時間を通して、自分も相手も大切にする心を育む教育活動を行ってきた結果、93%の児童が肯定的に捉えることができていた。今後も継続して取り組み、困っていることや辛い思いなど自分の気持ちが伝えられるように教育相談体制を整え、家庭との連携を図っていきたい。また、教育活動を通して、児童の良さを伸ばし、一人一人を認め、励ましなが、自己肯定感を高める支援を行っていきたい。 ③元氣な学校【挑戦心の育成】について ・昼休みや休み時間に、外に出て体を動かすよう声掛けを行ったり、運動委員会が中心となって全校遊びを実施したりして、体力向上の取組を行った。全校で取り組むことで、体を動かすことを楽しみながら体力の向上に努めることができた。 ・「健康に食事は大切である」と回答する児童は、95%、「朝食をとって登校する」児童は、95%であり、望ましい食生活は向上した。家庭での基本的な生活習慣の定着に向けた取組についても、保護者アンケートでは87%の保護者が肯定的な回答をしている。食習慣の意識は高く、食事の大切さは認識できており、今後も発達段階に応じた食育年間指導計画に基づく計画的な指導を更に充実させていきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西の子
----------	-------------------------------

3 本年度の重点目標	①全職員の共通実践を通した教職員の資質向上 ②人権教育の更なる充実による児童の自己肯定感の育成 ③体育的行事の工夫による児童の健康・体力づくりの向上
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「授業づくりのステップ1、2、3」の全項目において、ステップ3を目指した授業づくりを行い、「話し合い活動」と「振り返り」はステップ3を達成した教職員が80%以上にする。 ○ICT（一人一台端末等）を活用して授業を行うことで、学習内容がよりわかると答えた児童が80%にする。	・「授業づくりステップ123」のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業改善の意識の継続を図る。 ・各学級や個人の実態に応じて授業の形態を工夫する（習熟度、少人数指導の実施）。 ・ICT機器を活用した授業を毎日1単位時間以上実施し、効果的だった授業実践を共有する		・		・		・
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○気持ちの良い挨拶や返事・言葉遣いを意識して行動できる児童を（自己評価）85%以上にする。 ○「自分や相手が大切だ」と思う児童を85%以上にする。	・集会活動や運動会、あいさつ運動等で異学年交流の機会を設け、思いやりのある関わり方を意識させる。 ・人権・同和教育、男女平等教育は全教育課程に位置付け、教育活動の中で周りの人とのつながりを感じさせるとともに、一人ひとりの存在を認め合うことができるようにする。		・		・		・
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「やまうち合言葉」の「優しい言葉を周りの人」に意識して行動できる児童（自己評価で）を90%以上にする。	・「Q-Uアンケート」「いじめアンケート」「教育相談」を実施し、いじめや気になる児童の早期発見・早期対応に努める。		・		・		・
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上	・毎日の帰りの会で、いいことをした人や頑張った人を紹介する場を設け、児童の発表に対し、肯定的なコメントをしたり、教師から紹介をしたりする。 ・行事ごとに、キャリアパスポートを活用し、目標を達成できた児童や頑張った児童を紹介する場を設ける。		・		・		・
	○特別活動との関連を意識した道德科の授業実践	○職員アンケートで「他教科等との関連を意識した授業を実施できた」と思う教職員を80%以上にする。	・スキルアップ通信を配布し、職員の意識の向上に努める。 ・校内研修を行い、意識の向上並びに授業力の向上を図る。		・		・		・
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童100%を目指す。 ○朝食をとって登校する児童90%以上を目指す。	・給食時間の放送を通して、食材の産地や調理方法に関心をもたせ、食事の大切さに気付かせる。 ・各学級で食育指導を行い、食事の必要性に気付かせる。		・		・		・
●健康・体づくり	○「安全に関する資質・能力の育成」	○登下校や休み時間を含め、運動やスポーツなどで体を動かす時間が1週間で280分（1日40分程度）以上の児童70%以上	・登下校は原則歩いてすることを推奨する。 ・昼休みや休み時間に、外に出て体を動かすよう声掛けを行う。運動委員会の児童に全校遊びを計画させ、実行する。 ・地区児童会や学級指導を通して、放課後や長期休業中の時間の使い方を指導すると共に、外で体を動かすことに関心を持たせる。		・		・		・
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日（毎週金曜日）を確実に実施し、18時に施設する。 ・校務システムを利用して、職員が効率良く業務を行えるようにする。		・		・		・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「コミュニティ・スクール」及び「官民一体型学校」としての開かれた学校づくり	○保護者アンケートで「開かれた学校づくりに努めている」の肯定的な回答を90%以上にする。	・地域と連携した教育活動の様子を、学校HPや学校・学級だより等で定期的にかつ積極的に情報発信する。		・		・		・
	○教員の児童理解と支援力の向上	○職員アンケートで特別支援教育に関する児童理解と支援策を意識して指導する教職員80%以上を目指す。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、連絡会による情報共有をする。		・		・		・

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○志を高める教育	○自らの夢や目標をもち、それに向けて努力しようとする気持ちを高める教育活動の推進	○学校行事において自分の目標を意識して取り組める児童を85%以上にする。	・キャリアパスポートを活用し、自分の目標をもち、振り返りを行うことで、自主的・自発的に達成するという意識を高める。		・		・		・
○教育相談体制の充実	○児童が安心して教育を受けられる相談体制の充実	○心のアンケートや教育相談の実施により児童に寄り添う支援ができた教職員90%以上を目指す。	・教育相談期間を定期的に設定したり、心のアンケートに取り組んだりすることで、児童一人一人の状況を把握し、温かい声かけや支援を行っている。		・		・		・

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------